

湯河原ロータリークラブ



WEEKLY REPORT

ロータリーを实践し
みんなに豊かな人生を

第 2534回 例会
平成26年4月18日(金)
天候 雨
合唱 奉仕の理想
四つのテスト

会長 渡辺 久恭

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

幹事 石田 浩二

例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原

TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

先日、4月16日水曜日に会長幹事会が箱根ロータリークラブ山田会長の和の宿華ごころ（山田屋旅館別邸）で17:00より行われました。場所が強羅の早雲山と言う事で、私は箱根登山線で強羅まで行き、強羅からケーブルカーで早雲山まで行きました。

箱根登山線は小さいころ乗った事は有ると思いますが、幼稚園かそれより下の頃だと思しますので、あまり記憶に残っていません。

今回は、箱根登山線に乗れる絶好の機会なので、観光気分ですぐに家を出て行きました。湯本駅に着くと、平日にも関わらず、外国人観光客や関西の方など、かなりの観光客が乗っていました。また、カップル等も多く、スーツを着たおじさんは私くらいでしたので、今度は家族で乗りたいと思いました。また、最初のスイッチバック地点は塔ノ沢と大平台の間で大平台の方から来た電車とかなり接近して並行して走る所があり、関西のおばさま達が、ぶつかりそうと叫んでいました。自分もぶつかるのではないかと、ビビりました。

その後、スイッチバックを繰り返しながら、強羅に向けて、箱根駅伝の柏原選手の方が早いのではないかと、というくらいのスピードでキシキシ音をたてながらゆっくり、登って行きました。強羅からは、ケーブルカーに乗り換え早雲山まで行きました。

本題の、会長幹事会のお話は、時間の関係上、次回、機会が有りましたら、お話をさせていただきます。

幹事報告

ガバナーより

1. クラブ監事・クラブ事務局研修のご案内
日時：5月17日(土) 13時30~16時
会場：アイクロス湘南7階研修室
深澤会員出席・事務局欠席

回答期限：5月1日

湯河原町商工会より

1. 第17回チャリティゴルフ大会開催について
日時：6月5日(木) 午前7時30分~
会場：湯河原カンツリー倶楽部
プレー費：10,000円セルフ7,500円
参加費：2,500円

回答期限：5月9日

連絡事項

1. 日曜日の地区協議会は、湯河原駅10時30分集合・出発です。出席される方は遅れないようお願いいたします。尚、バス・昼食代として3,000円のご負担をお願いいたします。

スマイルBOX

- 渡辺久恭君 函南ゴルフ倶楽部のスクラッチ選手権でプレーオフの末優勝しました。
- 石田浩二君 本日の例会に際しお食事のご注文ありがとうございます。また、20日の地区協にはバス・弁当の注文も重ねてお礼申し上げます。
- 伊藤伸之君 娘の旦那が旅館に入り、私のあとを継ぐ事になりました。
- 浅田真隆君 長男が結婚しました。
- 小沢重彦君 お久しぶりです。皆様お元気でしたか？今日はお世話になります。
- 望月博文君 ロータリーバッチを忘れました。

出席報告	ゲスト 0名	ビジター 1名	会員 24名
	欠席 2(免除者 0名)		出席率 91.673%
	前回の修正出席率 83.33%		前々回の修正出席率 87.50%

事前メイクアップ 0名

【印度仏教全般から見た原始仏教】

お釈迦様が仏教を開かれ、その仏教を時代的にみていきましょう。

初期の仏教から、(1)原始仏教、(2)部派仏教、(3)初期大乘仏教(大小乗併立仏教)、(4)中期大乘仏教(大小乗学派仏教)、(5)後期大乘仏教(真言密教)の時代とすることが出来ます。

まず、原始仏教時代は、釈尊が仏教を開き、その伝道生活が始まり入滅後、2・3百年の間に部派が分裂するに至るまでをいいます。釈尊およびその弟子の時代を根本仏教といい、それ以後の時代のことを狭義の原始仏教と名づけ、釈尊およびその直弟子が説いた仏教が根本的なもので、その後は仏教の理解なり表現なりが低調となる卑俗となって、次第に部派仏教の形式主義の方向に傾いていったので、根本仏教と狭義の仏教に分派する方が史実に近いとされますが、広義の原始仏教の教理そのものを伝えるものはありません。部派仏教がいつ頃発生したかははっきりしませんが、現存するパーリ仏教などでは、西暦紀元前後とみられています。

仏教に限らず、一つの宗教がある地方に地盤をもつためには、その経済的根拠を有しなければなりません。宗教が民衆の生活の中で、支持者に依存しなければなりません。印度では元来、在家信者が出家者の経済生活を支持する風習があり、それは古くから正統バラモン教で、生涯を梵行期より、学問の修得をして家に入り、結婚生活を従事し、そしては家を出ることにより、妻子を捨て森林に住居を構え、哲学的宗教的の実践修行を行い、これが完成すれば最後の遊行期で、老年にも拘わらず一処不在の遊行者として世の中を托鉢して廻り、これが比丘、則ち乞士と云れ、後に非正統派の出家修行としてシャモンが現われるようになると、彼らはバラモン遊行期に従って、比丘の生活をしました。

正統派にしる、非正統派にしる、その学問及び実践修行が完成して、一般常人では得られない、すぐれた徳を具えた人に対しては、民衆はこれを尊敬し支持する風習があり、恐らくこのようなことはバラモンの制度が出来た時代からではないかとみられる。偉大な徳を具えた人に、食物や衣類などを施せば、供養した者はそれによって大きな功德を得、来世には天国に生まれて幸福な生活

が送れるという思想が、業報説を基調として、一般に信じられてきました。さらに尊敬の供養を受ける相手が優れた人であればある程、布施功德が、信者にとって一層大きなものになったと想われます。

南の地方では、経済生活が簡単に営め、食物が容易に調達できますが、調理した食物は暑さのため、貯蓄が容易でないで、その日に処分しなければならず、その日の食に余裕があれば誰かに施したい思いで、布施供養の風習が流行したと考えられる。

初期大乘仏教は西暦 300 年頃まで、大乘がもっとも新鮮で、純粹な形で存在したと見られます。中期では 300 年から 650 年頃と見られ、哲学的学問的な研究考察がなされるようになったが、専門化につれて民衆の信仰実践の面がおろそかになり衰退し、7 世紀頃から 13 世紀頃に仏教が印度本土で滅亡しはじめ、民衆の信仰実践面での復帰に向いたのが、後期大乘仏教です。中期に学問的な面は保持し、それを理解し易くするために象徴により表現し、仏教の理想を実現に導くようになり、これを真言密教といい、手に印契を結ぶ身蜜、口で真言を唱える語蜜、心に仏やその象徴としての種子を念ずる意蜜の三蜜によって仏教理想の実現に向かい哲学思想を平易に示し、仏教の根拠地、東部印度地方で大流行したが、この密教も失われた民間信仰と融合して仏教の正しい理想が欠け、ヒンズウ教やイスラム教からの圧迫を受けて、印度本土からの仏教の姿が消されるようになったのです。

現在でも厳しい戒律の中、南方仏教のスリランカ、ミャンマー、タイ、カンボジア、ラオスなどでは、民衆の殆どが仏教信者であり、その信者の力に応じて習慣的に出世僧に布施喜捨供養を行い、理想的に在家者と出家者との関係が保たれているようですが、仏教とは、「仏陀によって説かれた教え」であります。仏教の教えによって、すべての人が仏陀とか、成仏すると云うことを説くようになったのは、大乘仏教になってからです。

小乗仏教では、自分だけの完成や救済を目的とする自利の教えで、仏の教えを聞くことによりはじめて悟りが得られるとされます。大乘仏教は、自ら完成し救われるだけでなく、他の人々をも広く救済し完成させることを任務とする、自覚覚他の教えであり、自利だけでなく、自利と利他の両方をなすのが大乘仏教です。